



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931

第2回自然再生活動参加者募集

世界自然遺産地域周辺で広葉樹の植樹体験をしてみませんか

開催日：令和8年10月3日（土）

開催場所：青森県中津軽郡 西目屋村 暗門（鬼川辺国有林内） 他

募集定員：15名（応募多数の場合は抽選）

【開催最少人数5名に満たない場合は中止とします】

参加費：約700円

（傷害保険料・駐車場料金）

【参加人数により変更となる場合があります。

詳細は後日、参加者へお知らせします】

内容：広葉樹の植樹と

暗門第3の滝を散策（予定）

持物：昼食・雨具・

森林内で作業ができる服装・靴。

募集期間：9月1日（火）～9月11日（金）まで

※平日8時30分～17時まで（土日除く）

応募方法：電話・メール・封書にてお申し込みください。

※未成年者の参加には、保護者の同伴か同意書が必要となります。

※詳細につきましては、ホームページ、イベントページのチラシをご覧ください。



令和7年度第2回自然再生活動の様子



白神山地周辺の自然再生に関する委員会を開催しました

7月16日（木）、西目屋村の白神山地ビジターセンターにおいて「白神山地周辺の自然再生に関する委員会」を開催しました。

本委員会は、昨年度まで「白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」として開催していましたが、「白神山地周辺地域自然再生計画」の策定から20年近くが経過し、当時と比べて地域の状況や社会情勢等が変化していることを踏まえ、自然再生計画の点検を主な目的とする委員会へと見直し、設置要領を改正したものです。委員は学識経験者、ボランティア団体及び地方自治体関係者で構成されており、当日は17名が出席しました。



会議の様子

会議では、モニタリング調査の結果報告のほか、自然再生活動の実績及び今後の計画、各関係団体が抱える課題等について意見交換が行われました。

モニタリング調査の結果報告では、スギ人工林の列状間伐跡地における天然木の更新状況について、10年間にわたる調査結果が報告されました。調査は、周辺の森林環境や立地条件による違いを比較するため、通常の条件下であるA区域、広葉樹林に隣接するB区域、日照条件の良いC区域の3区域に分けて実施し、各プロットにおける稚樹の発生状況を調査しました。

調査の結果、B区域及びC区域では天然更新完了の基準を満たしましたがA区域では基準を満たしませんでした。一方、A区域では前生稚樹の生育が良好であり、3区域中最も樹高の成長が認められました。以上の結果から、広葉樹母樹の存在や十分な光環境、前生稚樹の保全が、天然更新による広葉樹林化の進行に重要な役割を果たすことが確認されました。しかし、これらの条件を満たさない箇所では、広葉樹林化に時間を要する可能性が示唆されました。このため、こうした箇所においては、植栽等の人為的な手法の活用も視野に入れながら自然再生活動を進めていきたいと考えています。

次に、各団体が抱える課題についての報告が行われました。その中で、多くの団体から、高齢化に伴う会員の減少により活動の継続が困難になりつつある状況が報告されました。特に、新しい担い手の確保が大きな課題として挙げられました。少子高齢化は全国的な課題であり、容易に解決できるものではありませんが、当センターとしても団体間の連携強化や情報共有の促進を図るなど、活動の支援に努めていきたいと考えています。

本委員会は、名称変更後初めて開催された節目の会議となりました。会議を通じて、各団体が抱える課題を共有することができ、自然再生活動を推進していく上で有意義な機会となりました。活動を取り巻く状況は厳しいものがありますが、白神山地周辺の自然再生の推進に向け、引き続き関係団体と連携しながら取り組んでまいります。

第 39 回白神山地ビジターセンターふれあいデーで親子木工教室を開催

7月18日（土）、19日（日）の2日間、西目屋村で開催された「第39回白神山地ビジターセンターふれあいデー」において、親子木工教室を実施しました。

参加者の皆様には、青森県産スギ材を使用した木工キットでイスかプランターのいずれかを選んで製作していただきました。両日とも予約が満員となり、2日間で計22組の親子にご参加いただき、大盛況となりました。

今回は「釘を打つのが初めて」というお子さんが多かったため、職員が金づちの使い方の見本を示しながら説明しました。最初はぎこちない手つきだった子供達も、親子で協力しながら作業を進めるうちに上達し、完成が近づく頃には慣れた様子で釘を打てるようになりました。

また、釘を打つ順番をめぐって兄弟げんかになる場面も見られましたが、それだけ子供達が夢中になって取り組んでいたことが伝わりうれしく思いました。

今回の木工体験が、木や森林をより身近に感じるきっかけとなるとともに、家族の大切な思い出として心に残ってくれば幸いです。



作り方の説明



親子で協力して作業

令和8年度五月女苑（十三湖）クリーン作戦に参加しました

7月23日（木）、津軽森林管理署金木支署が、五所川原市と連携して実施している清掃活動に参加しました。

活動場所は、国有林野内の海岸林（十三湖）の前に広がる十三湖湖畔と海岸に挟まれた草地です。この周辺では、不法投棄や日本海からの漂着ゴミが非常に多いことから、平成17年から継続実施されており、当日は地元関係者を含む50名が参加しました。

約1時間の活動の中で、軽トラック2台分のゴミが回収され、ゴミの中にはハンゲル文字の書かれたコンテナもありました。個人的には、ペットボトルのキャップなど回収しき



ゴミ拾い中の様子

れなかった細かなゴミは、来年回収しようと心に決め、すがすがしい気持ちで会場を後にしました。



回収したゴミ袋の山

この花、ご存知ですか

7月に入り、幹線道路沿いに、ひまわりにも似たオオハンゴンソウの黄色い花が群生しているのを見かけるようになりました。正確には、キク科オオハンゴンソウ属、北アメリカ原産の外来種で、日本には明治の中頃、園芸植物として伝来したとされています。

オオハンゴンソウは、その生命力と繁殖力の強さから、在来植物を押し分け、生育環境を奪う等の問題が懸念され、環境省の「特定外来生物」に指定されています。多年草であり、地下茎が残ると再び生長するため、根こそぎ除去しなければならないところに、「根絶」の難しさがあります。

白神山地周辺では、西目屋村白神ライン沿いの国有林内で生育が確認されており、関係者にご協力いただき、令和5年度から、同一箇所でも毎年駆除作業に取り組んでいます。



オオハンゴンソウ

開花（7～9月）前の駆除が望ましいため、今年も6月頃からオオハンゴンソウの生育状況を確認してきましたが、葉の形状が似ているヨモギ（葉の裏で判別）ばかりで、7月下旬に入っても、つぼみすら確認することができず、「これは、もしや」と期待を募らせていた8月下旬、現地で開花を確認しました。今年も種子を付ける頃までに、駆除活動を実施する予定です。

ちなみに、特定外来生物を生きたまま運搬することは原則禁止されていますが、特定外来生物である植物の防除を目的とした小規模な活動は、一定の要件を全て満たすことで、外来生物法の「運搬」には該当しないものとされています。

皆さんのお住いの地域で、駆除活動が行われる際には、環境省ホームページから詳細をご確認ください。